

平成 27 年度定時評議員会議事録

1. 日 時：平成 27 年 6 月 27 日（土） 11：00～14：00

2. 場 所：岸記念体育会館 1 階 101～103 会議室

3. 出席評議員（順不同・敬称略）：

岩手県ヨット連盟：長塚奉司、秋田県セーリング連盟：佐藤利秋、外洋津軽海峡：荒山雅仁、茨城県セーリング連盟：中村孝一、埼玉県セーリング連盟：谷正安、千葉県セーリング連盟：伊藤亮一、東京都ヨット連盟：落合光博、神奈川県セーリング連盟：藤井清一、長野県セーリング連盟：笠原賢一、外洋東京湾：大村雅一、外洋三崎：二松工、外洋三浦：庄野栄一、外洋湘南：新井五一、東京ヨットクラブ：平生進一、新潟県セーリング連盟：細井房明、外洋東海：川合紀行、富山県セーリング連盟：加賀谷賢二、福井県セーリング連盟：鈴木規之、京都府セーリング連盟：坂文彦、兵庫県セーリング連盟：川上宏、奈良県セーリング連盟：森谷大悟、和歌山県セーリング連盟：山口慶一、外洋内海：山岡閃、(公財) 広島県ヨット連盟：丸川義則、(社) 山口県セーリング連盟：小泉周三、外洋西内海：山田孝治、香川県ヨット連盟：九富潤一郎、愛媛県セーリング連盟：黒川重男、福岡県セーリング連盟：岩瀬広志、佐賀県ヨット連盟：松山和興、長崎県セーリング連盟：古賀誠次、外洋南九州：宇都光伸、全日本学生ヨット連盟：杉山嘉尚、(財) 全国高等学校体育連盟ヨット専門部：岡嶋佳治、(社) 日本ジュニアヨットクラブ連盟：中根健二郎、全日本実業団ヨット連盟：外尾竜一、日本視覚障害者セーリング協会：秋山淳、日本 470 協会：三船和馬、日本レーザークラス協会：木村治愛

以上、出席 39 名

その他出席者（順不同・敬称略）：

会長：河野博文、副会長：森山雄一、中川千鶴子、専務理事：鈴木修、常務理事：斎藤渉、坂谷定生、理事：平松隆、川北達也、天辻康裕、中澤信夫、相澤孝司、餅啓一、末木創造、森信和、高間博之、山本嘉一、岡村勝美、剥岩政次、監事：斉藤威、上野保、顧問：前田彰一、参与：小山泰彦、大谷たかを、鈴木保夫、桑原啓三、委員会：横田昌訓総務委員、柳澤康信広報委員長、吉留容子レディース委員長、永井真美環境委員長、戸張房子国際委員長、名方俊介ワンデザイン計測委員長、大坪明外洋安全委員長、オプザバー：豊崎謙広報委員、小屋忠文、田中令江、岩本圭

以上、その他出席 36 名

4. 議事の経過および結果

(定足数の確認)

評議員 51 名中、出席 39 名で、定款第 19 条に基づき定足数を充たしており、本会は有効に成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

定款 18 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は外尾竜一評議員に決定し、平成 27 年度定時評議員会開催の宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、庄野栄一、古賀誠次の両評議員が選任され、承認された。

(河野会長挨拶)

2020 年東京オリンピック・パラリンピックの若洲会場は、羽田空港の航空管制規制で国土交通省から許可が得られなかったことから、代替地 3 か所から立候補があった。6 月初旬に IOC を通じて江の島に決定した。また、平成 26 年度事業報告ならびに決算等の重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

5. 議案

1) 平成 26 年度事業報告及び決算報告 (案)

鈴木専務理事から資料に基づき、平成 26 年度事業報告について説明があった。

①2020 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、オリンピックセミナーを 2 回開催した。東京オリンピック・パラリンピック準備委員会では、委員会メンバーを増強するとともに、東京都、組織委員会との調整をはじめとして、成功に向け取り組みを開始した。②2016 リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックに向けた取り組みとして、同大会を目指す大会等への選手派遣を実施した。470 級男女、RSX 男子で出場枠を獲得した。オーストラリア・パースを中心に次世代育成のための合宿や、大会参加などの強化プログラムを実施した。東日本、中日本、西日本 3 水域に担当コーチを配置し、水域別に次世代を対象とした強化合宿を実施した。③第 69 回国民体育大会 (長崎国体) においてセーリング競技を開催実施した。和歌山国体リハーサル大会を開催実施した。国体艇種変更 (レーザー級、レーザーラジアル級、420 級) に伴う普及活動推進中である。④ユース制式艇種は、世界に羽ばたくユース世代を育成するため、正式艇種として 420 級とレーザー級を導入した。特に、420 級普及のため、寄付金を集め、世界大会で使用した新古艇を輸入し、全国各地への配布を完了した。2015 年和歌山国体、及びインターハイ実現に向けて取り組み中である。⑤大型艇レースの活性化の取り組みとして、ジャパンカップ、パールレース、ミドルボート選手権、沖縄東海レースを実施した。外洋常任委員会を中心に、外洋計測、外洋安全の各委員会と協力して、大型艇レースの活性化に継続して取り組み中である。⑥会員登録管理にかかわる課題解決を目的として、会員管

理新システムを構築するとともに、運用を開始した。JSAF ホームページをリニューアルし、タイムリーな情報発信に努めるとともに、会員相互の情報共有機能を強化した。⑦その他、レーザー4.7ワールドを佐賀県唐津で開催した。環境委員会では、環境コンテストを実施し、「未来に残したいきれいな海のカードで 10 年後の自分にメッセージを書こう」「ボート天国 in 小樽」「陸から守ろう！きれいな海を！」の 3 案を採択した。ルール委員会では、選手・指導者向けルール講習会を 21 回開催し、合計 950 名の受講者を得て、スポーツマンシップ、ルール理解の普及に取り組んだ。普及指導委員会では、公認指導者養成講習会（神戸・福岡）、公認指導者講師全国研修会（東京・唐津）、スポーツ国際キャリア養成プログラムを実施した。安全・危機管理 WG を立ち上げ、JSAF 共同主催、公認レース等における主催者事前実施事項、レース中の対応、レース後の対応等について危機管理の観点から現状分析、検討を行い、提言をまとめ公開するとともに、事後対策について継続検討中であるとの発言があった。

齋藤常務理事から資料に基づき、平成 26 年度決算報告(案)について説明があった。

法人全体として、収入は予算比で加盟団体会費収入（メンバー会費）が予算比で 2,912 千円増加した他、寄付金収入・協賛金収入も増加するなど全般的に増加傾向となった。支出は、会員システムリニューアル費 3,888 千円、ホームページリニューアル費 3,564 千円、事務局 PC 入替費 728 千円、制式艇収支差額（赤字）8,615 千円（制式艇プロジェクトと投資活動の合計）の合計 16,795 千円が一時的な費用が計上されたため、ほぼ 2 次補正予算通りであるものの例年より増加した。その結果、当期収支差額は▲16,144 千円の赤字となった。次期繰越収支差額は、前期繰越収支差額 64,794 千円から 16,144 千円減少し 48,650 千円となった。

事業別（委員会別）収支は、管理費・その他収入は、メンバー会費が予算比 2,912 千円増となり、会員の減少に歯止めがかかった状態となった。収入合計は、予算比 2,345 千円増の 77,442 千円。支出は、事務局員の異動に伴い給与・手当は予算比減少したが、退職金の計上などもあり、合計では予算比 563 千円減の 57,587 千円となった。一般事業各委員会は、一部の委員会において若干予算を上回る支出があったものの、総じて予算通りの結果となった。オリンピック強化委員会収入は、予算比 9,431 千円増の 148,952 千円、支出は同 1,505 千円増の 154,338 千円、委員会当期収支差額は▲5,386 千円となった。この赤字に対しオリンピック特別積立（前年度残高 8,234 千円）の一部を取り崩し、収支 0 円（オリ強委員会収支と投資活動収支の合計）として計上した。オリンピック特別積立の残高は 2,848 千円となった。制式艇種プロジェクトは、平成 26 年度は 40 艇を購入・販売し、収入は売却収入 15,100 千円と寄付金 11,400 千円の合計 26,500 千円、支出は購入費 34,461 千円と諸費用 5,062 千円の合計 39,523 千円、収支差額は▲13,023 千円となった。制艇特別積立から 4,408 千円を取り崩し、実質 8,615 千円の赤字となった。これは、本プロジェクト発足時に理事会で決議された JSAF 自己資金 10,000 千円の取り

崩しが本年度に実行された形となったものである。なお、本年度で制式艇配布事業は終了、平成 27 年度はインターハイ使用艇の設置事業を行うことになる。このための制式艇種特別積立を 8,000 千円計上した。投資活動収支および財務活動収支は、従来通り退職給与積立支出 696 千円などを計上した他、リース返済支出（リース料）4,604 千円などを計上し、合計収支差額 6,117 千円となった。収益事業収支は、カレンダー・業務用品販売収入 3,277 千円、製作費・仕入費等支出 4,169 千円、収支差額▲892 千円を計上した。なお、赤字額を上回る在庫があることは棚卸にて確認済みで、貯蔵品は 2,764 千円（前年比 933 千円増）となった。この結果、総合計の当期収支差額は▲16,144 千円の赤字となった。

貸借対照表では、資産は退職引当資産・制式艇特別積立・オリ強特別積立などの取り崩しなどにより、最終的に 14,980 千円減少の 132,987 千円となった。負債は、未払金の増加などにより、最終的に 1,900 千円増加の 56,283 千円となった。なお、この未払金はオリンピック強化補助事業で年度末までに支払が間に合わなかった事業費 7,398 千円が前年比で増加したためである。正味財産は、前年 16,880 千円減少の 76,703 千円となった。内訳として指定正味財産 12,438 千円、一般正味財産 64,265 千円である。収支計算書内訳表の収支差額は、公益会計▲28,001 千円、収益会計▲891 千円、法人会計 12,749 千円となり、公益において一時的に大幅な赤字が発生したものの前期繰越収支差額を考慮すれば問題のない状態を維持しているとの発言があった。

斉藤監事から、平成 26 年度決算報告の監査報告があった。事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められない。計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況を適正に示しているものと認める。また、本年度から新しい外部監査で独立監査人の監査を受けた。過去に指摘された個人謝金の寄付金も調査して遵守していることを確認したとの発言があった。

平成 26 年度事業報告及び決算報告（案）は、棄権 0、反対 0、満場一致で承認された。

2) 定款変更の件

横田総務委員から資料に基づき、定款変更について説明があった。

昨年の役員改選に併せ、名誉総裁職についても定款規定どおり理事会、評議員会決議を行い、宮内庁に対して高円宮久子妃殿下の名誉総裁職への再任を 2014 年 6 月 14 日付公文書にてお願いしたところ、皇族関係者の名誉総裁等への就任についてはその任期を定めないことが慣例であることが判明した。また、日体協を初めとするスポーツ競技団体のうち、名誉総裁職を定款で定めている諸団体においても、同職の任期規定は存在しないことを確認した。定款の変更内容は、現行定款第 28 条（名誉総裁、名誉会長、顧問

及び参与) 第7項(名誉総裁、名誉会長、顧問および参与には、第25条乃至第27条本文の規定を準用する。この場合において、これらの規定中「理事」とあるのは「名誉総裁、名誉会長、顧問及び参与」と読み替えるものとする。)から名誉総裁を削除するものであるとの発言があった。

定款変更は、棄権0、反対0、満場一致で承認された。

6. 和歌山県国体挨拶

紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会和歌山市実行委員会事務局次長の中村文治氏(国体競技課長)から資料に基づき、「2015紀の国わかやま国体」開催の挨拶があった。平成27年9月10～13日、和歌山セーリングセンターにおいてセーリング競技大会が開催される。レースコースはトラペゾイド及び風上下コースを実施する。また、全種目の第6レースは岸近くの風上下コースを実施する。心に残る大会を目指して準備に取り組んでいるので、連盟関係者各位のご協力をお願いしたいとの発言があった。

7. 報告事項

(1) 評議員からの質問及び報告

岩手県ヨット連盟の長塚評議員から資料に基づき、岩手国体リハーサル大会について報告があった。平成27年10月10～12日、宮古市 リアスハーバー宮古においてセーリング競技大会が開催されるので、連盟関係者各位のご協力をお願いしたいとの発言があった。

全日本実業団ヨット連盟の外尾評議員から、国体リハーサル大会は実業団のトップセーラーが参加しているので、本年度はセーリングセミナーを企画しているとの発言があった。

(2) JSAF 及び委員会からの報告

報告事項1 総務委員会報告

横田総務委員から資料に基づき、総務委員会報告があった。会員登録に関わる課題解決を目的とした会員管理新システムの現行システムからのスムーズな移行を図っている。本年度は新システム稼働後の運用状況をモニタリングし、会員、加盟・特別加盟団体に対するサービスの質的量的向上を実現するため、新システムの継続的機能改善を行う。各団体において問題点等の指摘をいただければ、できる限り改良・改善を図るとの発言があった。

報告事項 2 オリンピック強化委員会報告

斎藤常務理事から資料に基づき、オリンピック強化委員会報告があった。ISAF ワールドで国枠を獲得した RSX 級男子において、冨澤慎選手がリオデジャネイロオリンピック代表選手に内定済である。470 級男女は国枠獲得済で、日本代表は 6/27～7/4 開催の 470 級欧州選手権で選出される。また、他種目のリオ・オリンピック国枠獲得に向けて、クラス枠獲得と日本代表選手選考が行われるとの発言があった。

報告事項 3 オリンピック準備委員会報告

小山副委員長から、東京オリンピック準備委員会について報告があった。2020 東京オリンピック・パラリンピックセーリング競技会場は、当初予定していた若洲が空撮ヘリの飛行が難しいことから、江の島に変更になったとの発言があった。

桑原副委員長から、プレプレ大会があるのはセーリングのみである。まだ他競技の団体はボランティア募集などの具体的な活動はしていない。ボランティアは東京都組織委員会が募集することになるが、JSAF はセーリングの知識を持った多くのボランティアが必要になるので、JSAF ボランティア登録をしていただきたい。また、今後国内で開催されるワールドなどの国際大会に向けて IRO、IM、IJ などの運営委員も本格的に育成していくとの発言があった。

平松委員から、2020 東京オリンピック・パラリンピックという最高の舞台でのメダル獲得に向け、セーリング競技への理解を深め、併せて選手強化と運営スタッフの育成を目的としたマーケティング活動を推進する。まず日本代表チームの愛称と絵画の募集を行い、セーリング競技の興味を喚起することとスポンサー獲得を進める。愛称・絵画募集の期間は平成 27 年 7 月 20 日～8 月 31 日、全国の小・中学校及び全国の主要マリーナに募集内容を告知する。広告代理店の大広(株)に依頼するとの発言があった。

報告事項 4 ルール委員会報告

大村副委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。平成 27 年度もジャッジのスキルアップ講習会「A 級ジャッジクリニック（旧称：A 級ジャッジセミナー）」を来年 1～3 月に全国各地で開催する。また、抗議の要件の一つであるかけ声は、2017 年 1 月 1 日から「プロテスト」のみを有効なかけ声とし、「抗議」のかけ声（日本語）は無効になるので、各団体のメンバーに案内・周知していただきたいとの発言があった。

報告事項 5 国体委員会報告

末木委員長から資料に基づき、国体委員会報告があった。いよいよ本年度開催の第 70 回国民体育大会和歌山国体から艇種が変更される。また、都道府県予選会免除の特

別措置制度もあるので利用していただきたい。「ふるさと登録」制度は事前登録していれば、空白期間をおくことなしで出場できるので有効に利用していただきたいとの発言があった。

報告事項 6 環境委員会報告

永井環境委員長から資料に基づき、環境委員会報告があった。JOC から 2020 年に向けてスポーツから環境アクション「来たときよりもキレイに！～スポーツの心、環境と未来へ～」をスローガンに環境活動を実施するので協力いただきたいとの発言があった。

(3)その他

- ①斎藤常務理事から資料に基づき、「選手強化 NF 事業」の適正な執行について報告があった。会計検査院が実施した調査の結果、選手強化 NF 事業に関する不適切な経理処理が指摘された。現在は、再発防止の対策を然るべく講じている。なお、今回の指摘による選手強化 NF 事業委託金の返還に該当するものはなかったとの発言があった。
- ②鈴木専務理事から資料に基づき、「JAL ネクストアスリート・マイルプロジェクト」の案内と寄付のお願いがあった。
- ③鈴木専務理事から、JSAF 会員数は 1 万人の横這い状態で、各団体において会員増強に努めていただきたいとの発言があった。富山県セーリング連盟の加賀谷評議員から、本年度富山湾でタモリカップを開催するので JSAF 会員増強に努力するとの発言があった。
- ④河野会長から、アメリカズカップについて報告があった。

以上、平成 27 年度定時評議員会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 27 年 6 月 27 日

会 長 河 野 博 文

議 長 外 尾 竜 一

議事録署名人 庄 野 栄 一

議事録署名人 古 賀 誠 次